

2013年7月30日 全5頁

Indicators Update

6月鉱工業生産

改善一服だが、均せば持ち直しが続く

経済調査部
エコノミスト 橋本政彦

[要約]

- 2013年6月の生産指数は、前月比▲3.3%と5ヶ月ぶりの低下となり、市場コンセンサス（同▲1.5%）を下回った。3ヶ月移動平均も5ヶ月ぶりの低下となり、これまでの改善傾向が一服した格好だが、製造工業生産予測調査によれば先行きについては増加基調を見込んでおり、生産は持ち直しが続いているという判断に変更はない。
- 6月の生産を業種別に見ると、15業種中13業種で前月から低下しており、総じて弱い結果となった。ただし、先月時点の製造工業生産予測調査では、多くの業種が減産を見込んでいたため、事前の生産計画に概ね沿った内容と言える。特に、輸送機械工業、電子部品・デバイス工業、はん用・生産用・業務用機械工業などの加工組立業種の低下幅が大きく、全体を押し下げた。
- 先行きに関して、生産は今後も増加基調が続くと予想する。生産が安定的に増加するかどうかは、輸出数量の増加がカギとなる。新興国経済の減速が懸念材料ではあるが、米国の景気拡大や円安の効果によって輸出数量は増加傾向が続くとみられ、生産を牽引する見込み。さらに、2012年度補正予算執行による公共投資の増加や、2014年4月に予定される消費税増税前の駆け込み需要によって、内需は年度末にかけて加速し、生産を押し上げる公算が大きい。

鉱工業生産の概況（季節調整済み前月比、%）

	2012年				2013年					
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
鉱工業生産	▲2.2	0.3	▲1.0	1.4	▲0.6	0.9	0.1	0.9	1.9	▲3.3
コンセンサス										▲1.5
DIR予想										▲1.0
生産者出荷	▲2.5	0.3	▲1.6	3.7	1.2	1.8	▲0.8	▲1.4	1.0	▲3.4
生産者在庫	0.0	0.0	▲0.4	▲1.3	▲1.6	▲1.2	▲0.7	0.8	▲0.4	0.0
生産者在庫率	2.6	▲0.7	0.0	0.0	▲3.8	▲2.6	2.3	▲5.1	▲2.1	5.8

（注）コンセンサスはBloomberg。

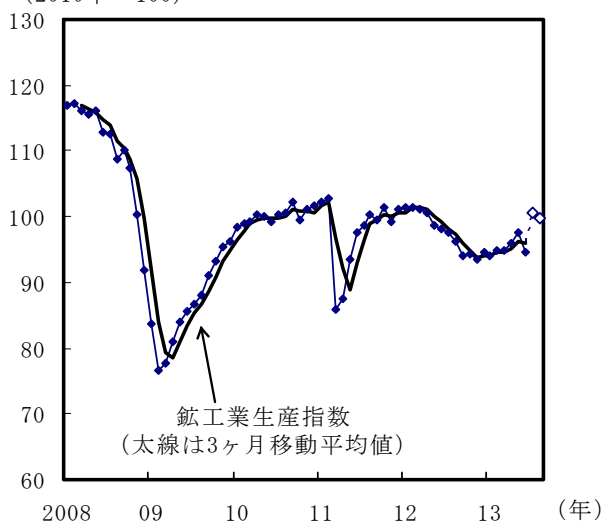
（出所）経済産業省、Bloombergより大和総研作成

生産指数は5ヶ月ぶりの低下

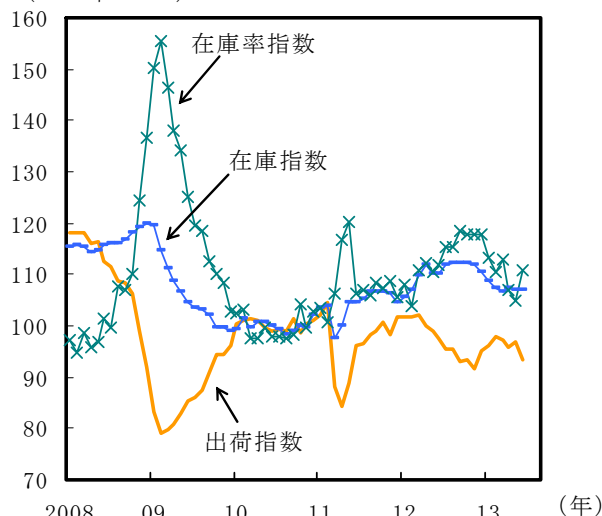
2013年6月の生産指数は、前月比▲3.3%と5ヶ月ぶりの低下となり、市場コンセンサス（同▲1.5%）を下回った。3ヶ月移動平均も5ヶ月ぶりの低下となり、これまでの改善傾向が一般した格好だが、製造工業生産予測調査によれば先行きについては増加基調を見込んでおり、生産は持ち直しが続いているという判断に変更はない。出荷指数は前月比▲3.4%と2ヶ月ぶりの低下となり、在庫指数は前月から横ばいとなったことから、在庫率指数は同+5.8%と3ヶ月ぶりの上昇（悪化）となった。

生産・出荷・在庫・在庫率の推移

(2010年=100) 鉱工業生産の推移



(2010年=100) 出荷・在庫・在庫率



(注) 鉱工業生産の直近2ヶ月の値は、製造工業生産予測調査による。

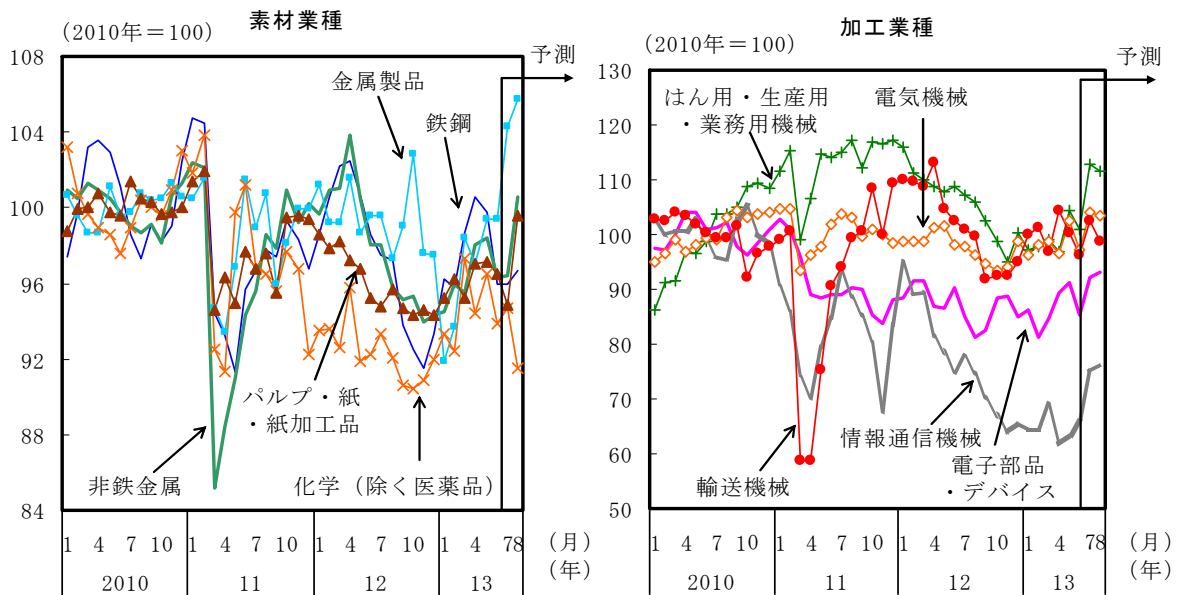
(出所) 経済産業省統計より大和総研作成

6月の生産は多くの業種で低下したが、概ね計画通り

6月の生産を業種別に見ると、15業種中13業種で前月から低下しており、総じて弱い結果となった。ただし、先月時点の製造工業生産予測調査では、多くの業種が減産を見込んでいたため、事前の生産計画に概ね沿った内容と言える。特に、輸送機械工業（前月比▲4.1%）、電子部品・デバイス工業（同▲6.7%）、はん用・生産用・業務用機械工業（同▲3.2%）などの加工組立業種の低下幅が大きく、全体を押し下げた。素材業種に関しては、鉄鋼業（前月比▲3.8%）、窯業・土石製品工業（同▲3.3%）が大きく落ち込んだが、それ以外の業種の減少幅は比較的小幅に留まっている。

製造工業生産予測調査によると、2013年7月の生産計画は前月比+6.5%、8月は同▲0.9%となっており、先行きに関しては、振れを伴いつつも増加基調が続く見込み。7月に関しては、6月の減少幅が大きかった加工業種が軒並み大幅な増加を見込んでおり、全体を押し上げる計画となっている。一方、8月については、輸送機械工業、はん用・生産用・業務用機械工業が反動で減少し、全体を押し下げの見込みである。ただし、減少幅は限定的であり、高水準での推移が続く見込み。先行きについては、加工組立、素材を問わず、多くの業種が生産の増加基調を見込むなか、化学では慎重な生産計画となっている。

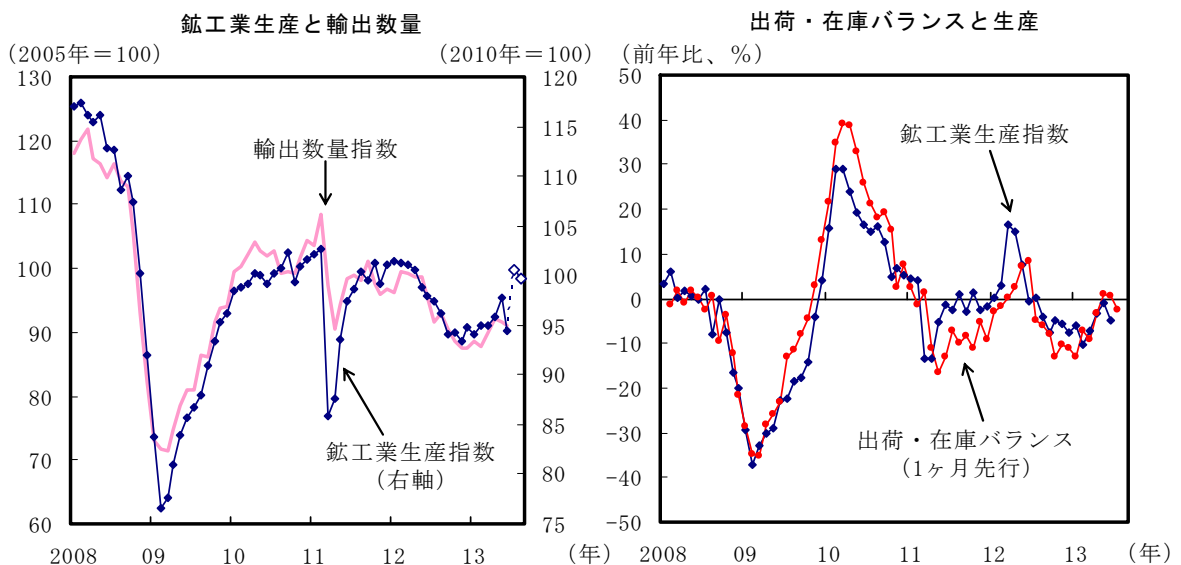
主要業種の生産推移



生産は輸出の増加に牽引されて増加傾向が続く見通し

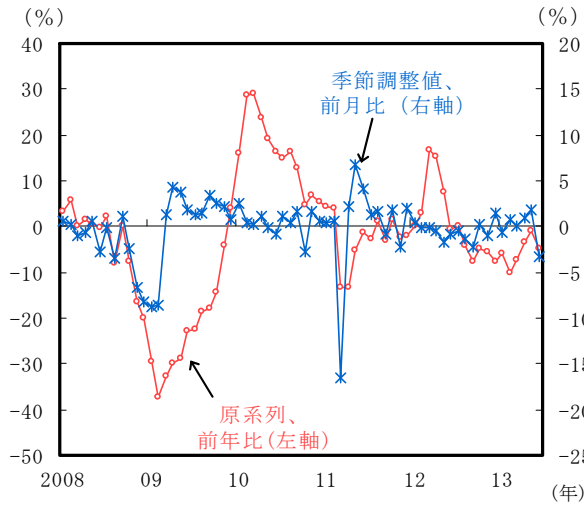
先行きに関して、生産は今後も増加基調が続くと予想する。生産が安定的に増加するかどうかは、輸出数量の増加がカギとなる。新興国経済の減速が懸念材料ではあるが、米国の景気拡大や円安の効果によって輸出数量は増加傾向が続くとみられ、生産を牽引する見込み。さらに、2012年度補正予算執行による公共投資の増加や、2014年4月に予定される消費税増税前の駆け込み需要によって、内需は年度末にかけて加速し、生産を押し上げる公算が大きい。

輸出数量、出荷・在庫バランスと生産

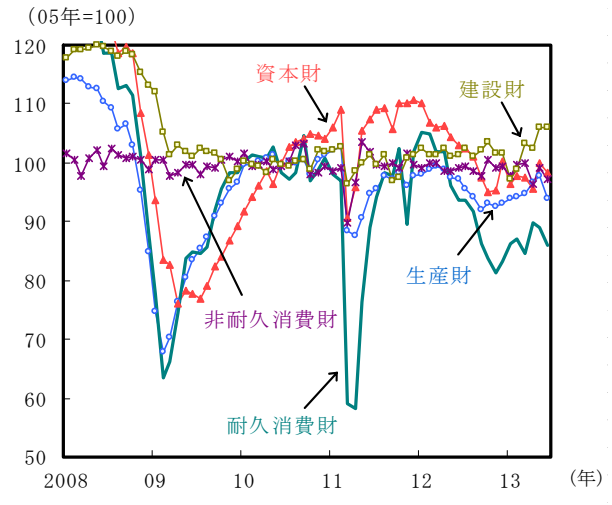


概況

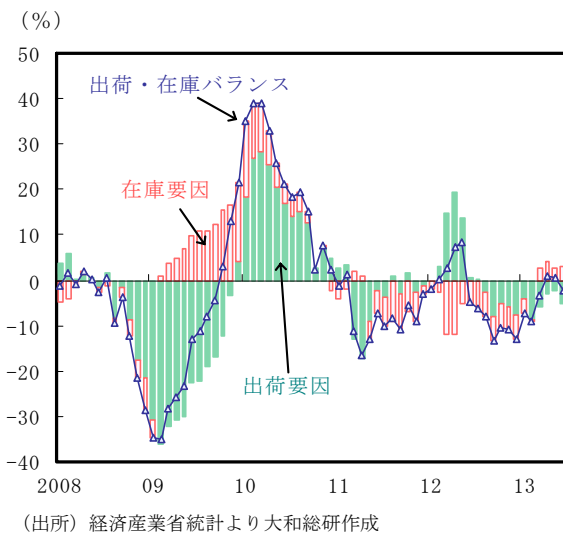
鉱工業生産指数の変化率



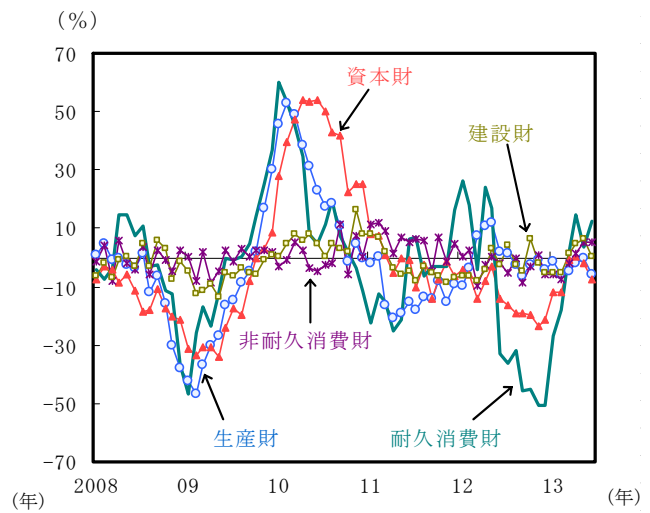
財別の生産指数(季節調整値)



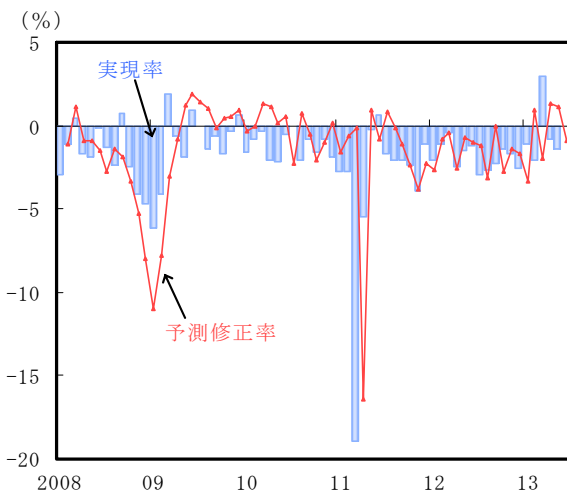
鉱工業生産指数の出荷・在庫バランス



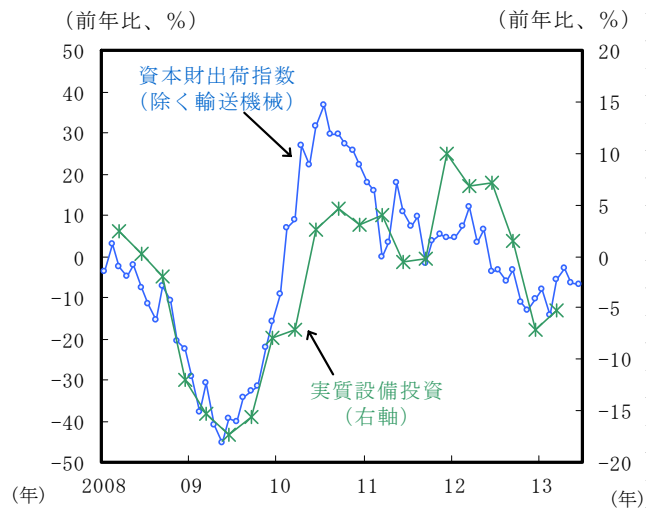
財別の出荷・在庫バランス



予測修正率と実現率

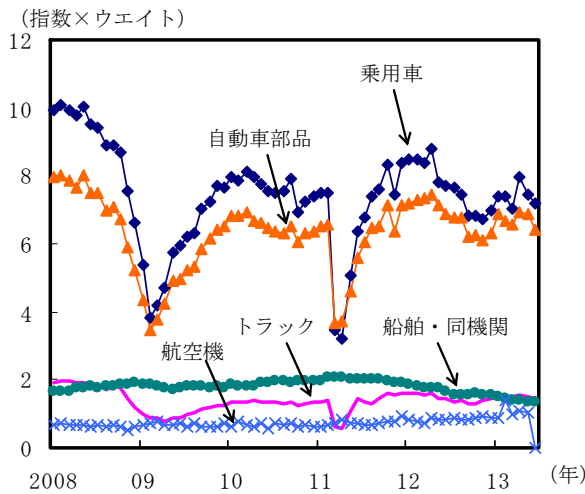


資本財出荷(除く輸送機械)と設備投資

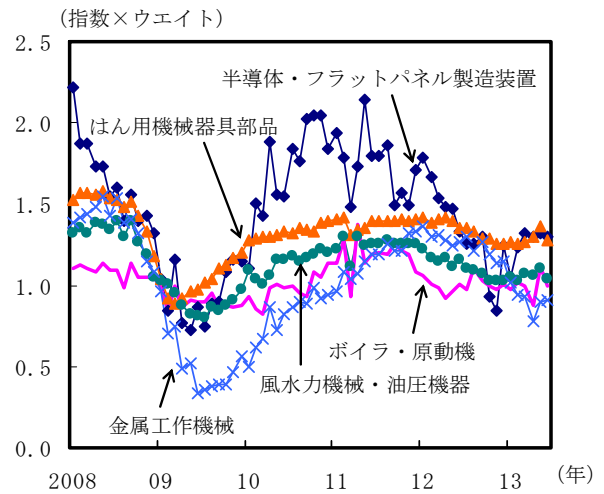


主要産業の生産動向(季節調整値)

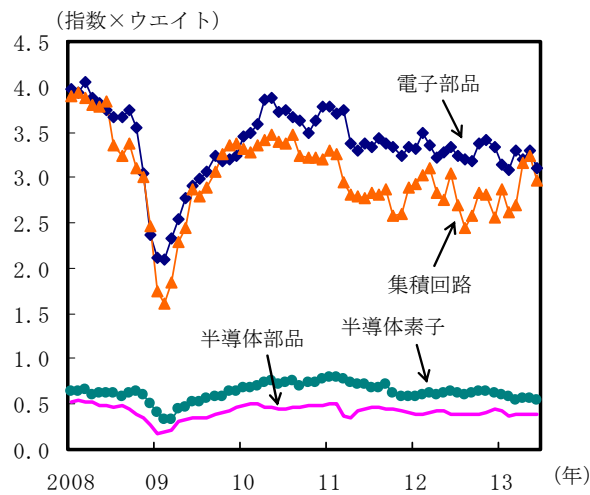
輸送用機械



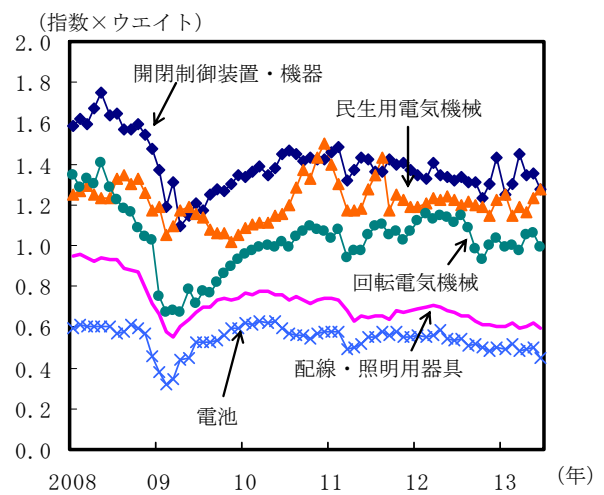
はん用・生産用・業務用機械



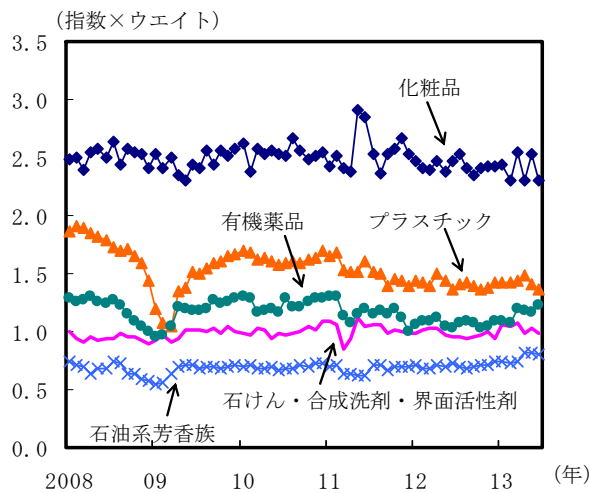
電子部品・デバイス



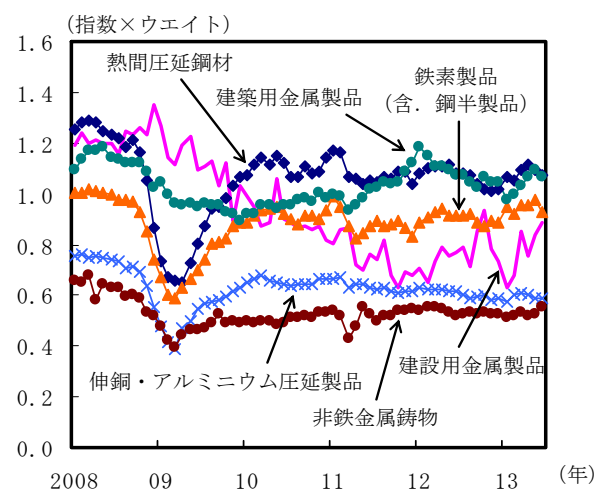
電気機械



化学



鉄鋼・非鉄金属・金属製品



(出所) 経済産業省統計より大和総研作成